

3. 学校外の学習機会

①学習塾・予備校の利用

放課後や日曜日に学習塾、予備校に通っているのは、全体で19.8%。第1回調査12.7%、第2回調査15.0%、第3回調査19.8%と着実な上昇傾向にある。塾の種類は「進学塾」が46.1%、「補習塾」が40.5%とほぼ拮抗している。1クラスの人数は、「5人以上」が50.5%とおおよそ半数を占め、「少人数（2～4人）」が23.7%、「個別指導（1人）」は21.5%である。週2日が平均的な通塾日数であり、大半が3日以内となっている。

Q

あなたは今、放課後や日曜日に、学習塾や予備校に行っていますか（そろばん、習字などの塾は除きます。「公文」のような自習教室は含めます）。

[行っている人にうかがいます]

- ・週に何日行っていますか。
- ・あなたの行っているのは、どんな学習塾（予備校）ですか。
- ・あなたが行っている学習塾（予備校）は1クラス何人ですか。

本項では、学校以外の学習機会の利用状況を明らかにするために、「学習塾や予備校」「通信教育」「家庭学習教材」「家庭教師」などの利用度を尋ねてみた。

まず、放課後や日曜日の学習塾や予備校の利用状況である。全体的には「通っている」者は19.8%と2割にすぎず、少数派である（図1-1-24）。ただし、時系列的にみると、第1回調査12.7%、第2回調査15.0%、第3回調査19.8%と着実な上昇傾向をみることができる。通塾率の低さは、高校生の学習行動上の特徴の1つで、中学生、小学生の通塾率を下回っている。家庭での学習の内容も高校生の場合、学校の宿題、予習、復習などに限定されており、それだけ高校生の学習に占める学校のウエイトは大きいといえる。学校外学習機会への依存度が小さい。

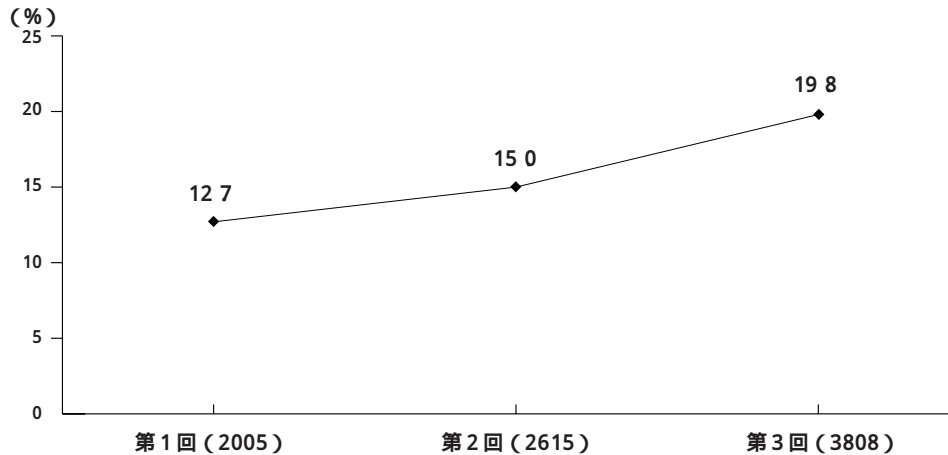
通塾している場合、どんな塾（予備校）に何日くらい通っているのかを示したのが、表

1-1-6である。塾の種類としては、「大学や短期大学を受験するための進学塾」が46.1%と最も多く、わずかな差で「学校の勉強がわかるようになるための補習塾」（40.5%）が続く。1クラスの人数は、「5人以上」が50.5%とおおよそ半数を占め、「少人数（2～4人）」が23.7%、「個別指導（1人）」は21.5%である。

週あたりの通塾日数は、最頻値が「2日」で44.5%、「1日」が27.0%、「3日」が17.0%である。週2日が平均的な通塾日数であり、大半が3日以内となっている。

3日以上通塾している者の比率は、第1回調査20.1%、第2回調査17.9%、第3回調査25.9%である。第1回調査と比較すると数%、第2回調査と比べると1割弱多くなっている。通塾率自体が増加しただけでなく、週あたりの通塾日数もやや増加傾向にある。

図 1 - 1 - 24 学習塾や予備校の利用率（時系列）



注1) 放課後や日曜日の、学習塾や予備校の利用率。ただし、習字などの塾は除き、「公文」のような自習教室は含む。
 注2) () 内はサンプル数。

表 1 - 1 - 6 学習塾や予備校の利用状況（時系列）

		(%)		
		第1回 (254)	第2回 (391)	第3回 (755)
週に何日行っているか	1日	28.3	26.1	27.0
	2日	48.0	48.8	44.5
	3日	13.4	10.0	17.0
	4日	5.5	5.1	5.4
	5日	0.0	1.0	2.1
	6日	0.8	0.5	0.9
	7日 (毎日)	0.4	1.3	0.5
学習塾(予備校)の タイプ	学校の勉強がわかるようになるための補習塾	44.5	35.8	40.5
	大学や短期大学を受験するための進学塾	44.9	46.8	46.1
	その他	6.7	10.0	10.3
1クラスの人数	1クラスに1人 (個別指導)	—	—	21.5
	1クラスに2～4人	—	—	23.7
	1クラスに5人以上	—	—	50.5

注1) 「1クラスの人数」は、第3回調査のみの項目。

注2) () 内はサンプル数。

②諸学習機会の利用

「今年の夏休みに、学校が行う補習授業を受ける予定だ」が45.7%と圧倒的に多く、これに「『進研ゼミ』のような通信教育を受けている」19.5%、「学校で朝や放課後の補習授業を受けている」19.3%が次ぐ。「今年の夏休みに、塾や予備校の夏期講習に行く予定だ」は15.3%で、第1回調査と比較して倍増した。



あなたは次のようなことをしていますか。

「通信教育」「家庭教師」「塾や予備校の夏期講習」「宅配の家庭学習教材」や「学校の補習授業」についてはどの程度の利用がみられるだろうか。学校の補習授業は、学校が行う指導であるという意味では学校外の学習機会には含まれないが、学校による正規の教育課程ではないこと、さらに通信教育等の学校外学習機会とトレード・オフ関係にあると推測されるため、ここでは比較分析を行った。なお補習授業については、(1)朝や放課後、(2)夏休みの補習に分けて尋ねた。

全体としてみると(図1-1-25)、「今年の夏休みに、学校が行う補習授業を受ける予定だ」が45.7%と圧倒的に多く、これに「『進研ゼミ』のような通信教育を受けている」19.5%、「学校で朝や放課後の補習授業を受けている」19.3%が次ぐ。「今年の夏休みに、塾や予備校の夏期講習に行く予定だ」は15.3%であるが、「宅配の家庭学習教材をとっている」2.5%と「家庭教師についている」2.6%はいずれも少数である。

第1回・第2回調査と比較すると、以下の傾向がみられる。

①「夏休みの学校補習」「朝や放課後の補習」が減少傾向にある。

②「夏休みの塾・予備校の夏期講習」は、第1回調査と比較して倍増した。

③「通信教育」は横ばい、「宅配の家庭学習教材」は減少傾向にある。

学校中心の高校生の学習ではあるが、塾と予備校の比重が徐々に大きくなりつつあることがわかる。

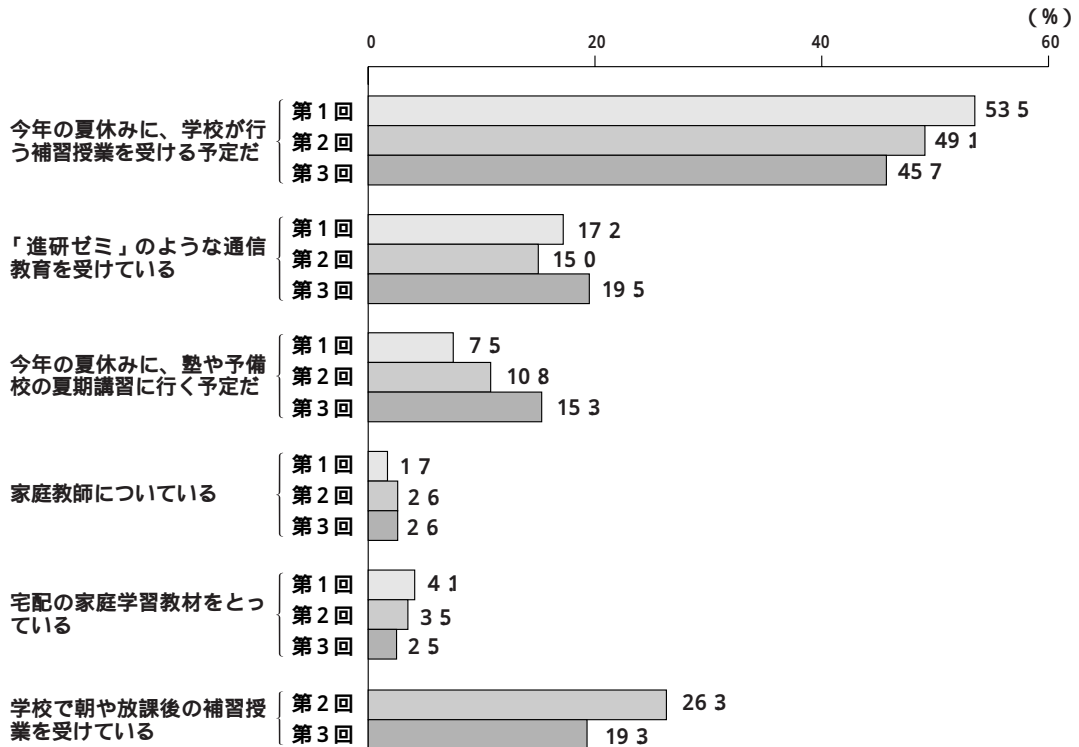
これらの学習機会の利用率は、学校ランク別にみて大きく異なっており、次のような傾向がある(図1-1-26)。

①「夏休みの学校補習」は上位ランク校で高く5割を超えるが、他は4割前後である。

②「塾・予備校の夏期講習」は、学校ランクが下がるにつれて利用率が低下する。上位ランク校21.9%に対して下位ランク校は4.2%にすぎない。

③通信教育は、上位ランク校から中下位ランク校まではほとんど差がなく2割強の利用率を示すが、下位ランク校では1割となる。総じて、上位ランク校の生徒ほど、補習と学校外学習機会の利用率が高い。

図1 - 1 - 25 諸学習機会の利用（時系列）

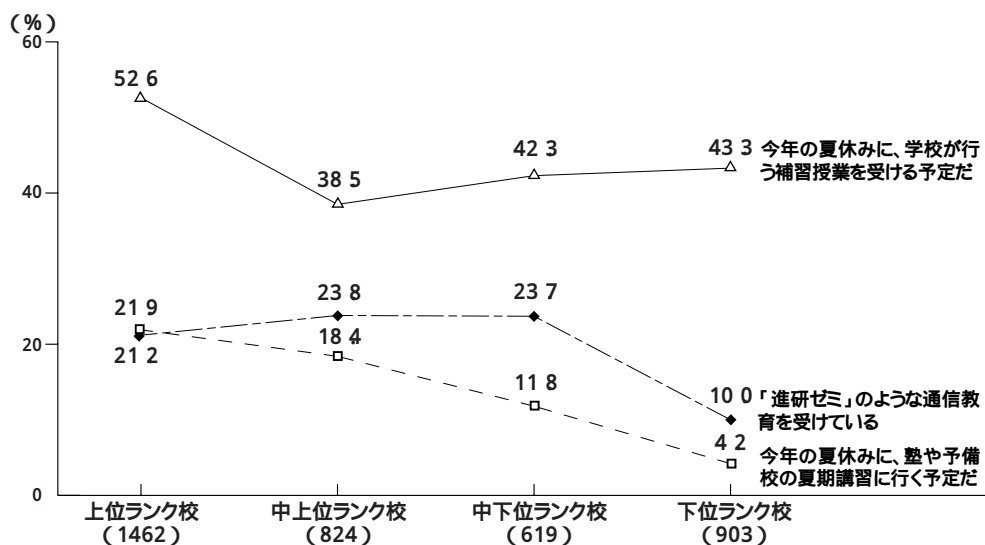


注1) 複数回答。

注2) ーは第1回に該当項目なし。

注3) サンプル数は第1回2005人、第2回2615人、第3回3808人。

図1 - 1 - 26 諸学習機会の利用（学校ランク別）



注1) 複数回答。

注2) () 内はサンプル数。